

くまもと

388号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2024.4

和欧文機械印 0-8

細井敏幸

和欧文機械印は、大量の定形郵便物に使用されます。集配がある時間帯や、職員が多い時間帯に使用されるため、深夜の0-8時間帯の消印は極端に少なくなっています。

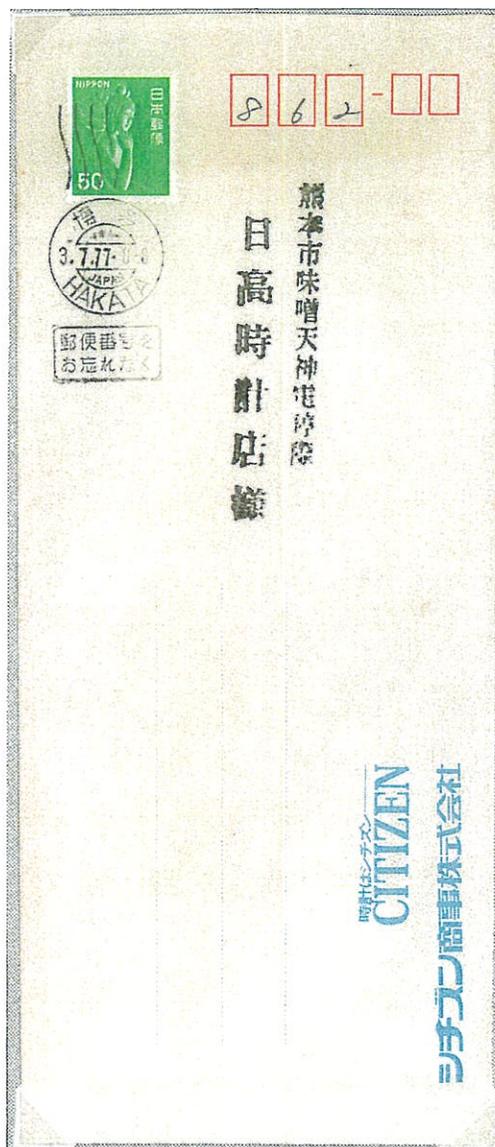
ここでは、その消印を紹介します。



旧型機械印元号入り



新型機械印元号入り



旧型機械印元号なし

和欧文機械印は、自動選別取り揃え押印機といった機械押印機に組まれた消印です。

これは、郵便物に貼付された切手を機械が検知し、自動的に消印を押印する装置で、毎時 25,000 通の処理能力があります。

1968 年 (S43) 12 月より以下の 10 局にて使用開始されました。

東京中央・日本橋・芝・渋谷・新宿・川崎

横浜中央・横浜南・鶴見・川口

全盛期には、400 を超える局で使用されていましたが、郵便物の減少と証紙の使用機械自体の老朽化により撤去され、60 局を切るのが現状です。

さて、どのタイプの消印でも 0-8 が少ないと言えるが、確かに櫛型印などでは 8-12 などと比べると少ないが、稀少というほどではない。

本当に少ないのは、和欧文機械印の 0-8 です。私のコレクションでも 1 ページ目に紹介したほどです。この理由として、0-8 の時間帯には機械が原則稼働しないからとされているからです。



右側に紹介するのは、15 円菊の 0-8 押印です。

和欧文機械印は、郵便取り扱い量が多い集配普通局を中心に配備されました。0-8 時間帯は、取り扱い絶対量が少ないのですが、探せばあるものです。

但し、10 キロボックスをみたところで、おいそれと見つかるものではありません。但し、郵趣的価値が高いと言う訳でもありませんが貴重なものもあるようです。これも、個人の価値観ですね。

中には、和欧文機械印の使用期間が極端に短い局 (大分) もあるようで、その中で 0-8 なんて出たらある意味ではお宝かもしれません。大分局は、1979.7.6 から元号入りに変更される 1979.8.31 までの期間しかありません。

消印収集は、「個人のこだわり」皆さんにも関心を持っていただけたら幸いです。